

国際連語論学会第3回大会の報告と学会誌〈IV〉原稿募集

国際連語論学会会長 高橋弥守彦

去る2015年2月21日(土)、22日(日)に大東文化会館で開催されました国際連語論学会第3大会にご発表いただき厚くお礼を申し上げます。ここに2日間で66名の参加者があったことをご報告申し上げます。本大会は詳細な研究発表・話題提供と活発な質疑応答があり、盛会なうちに終えることができました。これもひとえに研究発表やシンポジウムなどでの話題提供をしてくださった皆様方のお力添えによるものと思われま

す。さて、本学会では「国際連語論学会大会」や月例会で発表された論文を査読の上で学会誌として毎年一冊年末に出版することになっております。次号の学会誌『研究会報告第38号 国際連語論学会 連語論研究〈IV〉』も査読の上で出版することとなります。会員の皆様におかれましては奮ってご投稿くださいますようお願い申し上げます。執筆要領は以下のとおりです。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

『研究会報告』第38号 国際連語論学会 連語論研究〈IV〉 執筆要領

一、使用言語

本書の使用言語は日本語または中国語とする。

二、原稿の構成

原稿は、次の部分から構成されるものとする。

- (1) タイトル(副題)
- (2) 執筆者名と所属機関名
- (3) 英文タイトル・英文執筆者名
- (4) 要旨(本文以外の言語)
- (5) キーワード(5つ以内)
- (6) 目次
- (7) 本文(図表を含む)
- (8) 脚注
- (9) 言語資料
- (10) 参考文献

三、原稿の分量

日本語論文・中国語論文ともに原則としてA4で10枚前後とすること。

四、原稿の書式

1. 表題などの表記方法

- (1) タイトル: MS明朝14ポイント、中央
- (2) 副題: MS明朝14ポイント、中央
- (3) 執筆者名と所属機関名: MS明朝10.5ポイント、所属機関名は括弧の中に入れる、

右寄り

- (4) 要旨、キーワード：10.5 ポイント
- (5) 見出し番号、見出し：MS 明朝 10.5 ポイント
- (6) 本文：MS 明朝 10.5 ポイント
- (7) 図表の見出し：MS ゴシック 10.5 ポイント
- (8) 図表の文字：MS 明朝 110.5 ポイント
- (9) 英文：Times New Roman 10.5 ポイント
- (10) A4 判横書き、1 行 40 字×36 行
- (11) word 文書と PDF 文書を同時に提出
- (12) 脚注 9 ポイント

2. 表記の統一

原稿の表記は、統一すること。

3. 見出しの取り方

見出しは、大中小の区別を明確に示し、見出し記号を付す。

(例) 大見出し 1. 2. 3.

中見出し 1.1. 1.2. 1.3.

小見出し 1.1.1. 1.1.2. 1.1.3.

なお、見出し番号を本文で使う場合は日本語論文では MS 明朝を使う。

(例) 「1.3 で言及したように (中略)」

4. 注記

脚注とすること。注番号は本文の該当箇所に肩付き数字で、^{1) 2) 3)} と入れる。

5. 図表

- (1) 図表には、それぞれの通し番号を付し、必ず表題をつける。
- (2) 本文中に挿入する場合は、本文中に適切なスペースをとり、図表の番号を記す。
- (3) 図表は鮮明なものであること。
- (4) 図表を、他の出版物から転載する場合は、必ず事前に当該図書の出版社から転載許可をとりつけておく。また、その図表、写真の下に、当該図書の著者/出版年/書名/出版社名を表記すること。

6. 参考文献の記述方式

- (1) 本文中で参考文献を記述する場合

文献全体を示す場合 著者の姓名 (出版年)

(例) 鈴木康之 (1993) 陸俊明 (2003)

文献の一部を示す場合 著者の姓名 (出版年:当該文献のページ)

(例) 鈴木康之 (1993:12)

同じ著者が同じ年に 2 冊以上の本を出している場合、年号の後に a や b をつける。

(例) 鈴木康之 (2000a : 7) 鈴木康之 (2000b : 28) のように
なお、数字 (MS 明朝)、句読点 (標点符号)、() などは全角。

(2) 参考文献リストを付ける場合

(イ) 記述されている言語によって分類し、まず和文の参考文献を著者名あるいは編者名の 50 音順に、続いて他の言語による文献を並べる。英語などローマ字の場合はアルファベット順、中国語・韓国語の文献などは執筆者の判断にしたがって順番を定める。

(ロ) 同じ著者名の文献が続く場合は、2 冊目以降は繰り返さずに、「——」を用いる。

(例) 南不二男 (1981) 「言葉のタブー」『講座日本語学 9』、明治書院 43-64
—— (1987) 『敬語』、岩波新書

(ハ) 和文文献の場合は、原則として次の記載方法による。

1) 著者名 2) 刊行・発表年 3) 論文名 4) 書名または雑誌名 5) 発行機関 6) 頁

(例) ネウストプニー, J. V. (1979) 「言語行動のモデル」南不二男編『言語と行動』講座言語第 3 巻、大修館書店

南不二男 (1981) 「言葉のタブー」『講座日本語学 9』、明治書院 43-64

(ニ) 英語などローマ字の場合は、原則として次の記載方式による。

1) 著者名 2) 刊行・発表年 3) 論文名 4) 書名または雑誌名 5) 発行地および発行機関 6) 頁

なお、4) については、イタリック体で書く。

(例) Neustupny, J. V. 1977. Some strategies for teaching Japanese honorifics.

Journal of the Association of Teachers of Japanese 12, nos 2-3:135

(ホ) Web ページを参考文献として掲載する場合には、URL、及び参照した日付を記載する。

(例) 国際交流基金「日本語教育国別情報〈英国〉」

<http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/2004/uk.html> ,

2005 年 10 月 20 日参照

(3) その他の表記

○ルビ：原則として上につける。ただし、引用部分はその限りではない。

○引用文：引用であることがわかるように表現する。一般には 3 文字開ける。
注などを用いるか、文中に()などで出典を表すかは、執筆者の判断に任せる。引用に手を加えた場合は、その旨を明記する。

○外国人の姓名：論文中に姓名を英語ではなくカタカナで表記する際は、「・」を姓と名の間に入れる。

○句読点：日本語は「、」と「。」を用いる。中国語は標点符号を用いる。

○書名、論文名：日本語の書名は『』、論文名は「」を用いる。中国語の書名は《》、論文名は〈〉を用いる。

○網掛けの使用は避けること。

五、原稿の送り先と締め切り

原稿の送り先は高橋弥守彦 E-mail：3441748402@jcom.home.ne.jp

締め切りは、2015年5月31日（日）とする（時間厳守）。

六、その他

本学会論文集は、原則として国際連語論学会第3回大会および月例会で発表した発表者（研究発表、シンポジウム「連語論研究の過去と現在と未来」などを含む）の投稿した論文一人一編（共同執筆も可）を「国際連語論学会編集委員会」により査読した上で、出版するものである。選考の結果は原則として締め切り5カ月前後に投稿した発表者にE-mailで知らせるが、投稿した原稿は返却しない。原稿料も支払わない。論文の掲載は会員を優先とする。なお、本学会論文集は発表者や執筆者から出版費用を徴収しない。執筆者には論文集を2冊贈呈する。

国際連語論学会編集委員会 編集責任者高橋弥守彦

2015年3月9日(月)